

## 考古学若手研究会 2020 第 4 回研究発表会 要旨

## 第 4 回研究発表会

日程： 2021 年 10 月 3 日（日）実施

場所： Zoom

## 発表 1

「弥生時代中期の大阪湾沿岸における葬送儀礼の地域性と造墓集団  
—周溝墓出土土器による分析—」

蓮井寛子<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 大阪大学大学院 文学研究科 博士前期課程 1 年

弥生時代中期の墓制を特徴づける方形周溝墓では、土器などの出土から多様な葬送儀礼がおこなわれたことが窺える。その中でも各地の周溝墓で普遍的に出土する土器の様相は、その地域や造墓集団に即した儀礼内容を強く反映するものと考えられる。

そこで今回、弥生時代中期の大阪湾沿岸地域を対象地域とし、土器の器種組成、墳丘規模・埋葬主体数との数量的関係、穿孔土器の分析から、葬送儀礼の時期的変遷と地域性の再整理を試みる。

## 発表 2

## 「古墳時代前期倭鏡生産体制に関する予察—鼉龍鏡と捩文鏡を中心に—」

清山 隆<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 岡山大学大学院 社会文化科学研究科 博士前期課程 2 年

古墳時代前期倭鏡の生産を一元的なものとみなすか、地域生産を認めるかという議論は、政治史のなかでの前期社会を評価するうえで重要である。本発表では前期倭鏡のなかでも中心的な一群のひとつである鼉龍鏡と、これと近縁ながら地域生産が想定されることもある捩文鏡を主な対象として文様や製作技術を比較し、両群が同一の工人集団のもと生産された可能性が高いことを明らかにする。また工人集団の内部構造についても展望を述べる。

主催： 考古学若手研究会 2020（実行委員：中川朋美（南山大学 博士研究員）、ジョセフ・ライアン（岡山大学 特任助教））

共催： 文部科学省 科学研究費助成事業 新学術領域研究（研究領域提案型）2019 年度～2023 年度「出ユーラシアの統合的人類史学 - 文明創出メカニズムの解明 -」A02 班・C01 班 南山大学考古・人類学セミナー「形ノ理：モノが語る物語」